

症例発表と活発な質疑応答！

日時：平成23年10月16日（日）

場所：大阪・西梅田／ハービスプラザ5階研修室



樽味 寿（兵庫県）

平成23年度第5回関西支部研修会が、10月16日（日）、大阪（西梅田）のハービスプラザ5階研修室で開催されました。

9時半から始まった午前の部は、私を含めた9名の会員が症例発表。演者のほとんどは関西の方でしたが、太田宏彰先生が宮崎から来られ『下顎小白歯部中間欠損にインプラント治療を行った1症例』を発表されました。それぞれの発表において活発な質疑応答が行われ、いろいろな先生の考え方や新しい情報を得ることができ、大変貴重な時間となりました。

各人に与えられた発表時間が15分と長めだったため、ひとつのテーマに絞って複数の症例を提示される先生もおられました。『矯正的挺出の有用性を再考する』というタイトルで発表された長岡京市開業の藤原康則先生からは、安易に抜歯しない“歯科医師としてのこだわり”を感じました。藤原先生の症例の中には、歯槽骨の誘導・増生を目的に、保存不

可の残根を意図的に抜歯窩に戻してGBRを不要にしたものもあり、“健全な歯根膜をいかに活用するか”という視点は大変参考になりました。もっと色々な症例を見せて頂きたいので、ぜひ、そういう機会を作って欲しいと思います。

午後は、大阪中之島デンタルクリニックの山本彰美先生に約3時間、一般歯科医師でも実践できるような静脈内鎮静法（セデーション）を分かりやすく講演していただきました。患者さんが快適で、しかも安全なインプラント治療を目指すならセデーションは必須だと頭では分かっているのですが、ルートの確保をはじめ慣れていないことが多く、自分では敬遠しがちになってしまいます。山本先生のご講演でイメージはできたので、あとはやってみるだけ！でしょうか（その壁を越えるのが難しい）。

最後になりましたが、私（インプラント歴3年）のようなインプラント・ビギナーにとっては、全員発



表会以外にも症例検討できる場があることは大変助かります。これからもインプラント臨床研究会の、そして(個人的に師匠と呼ばせて頂いている)中野喜右人先生を中心とする関西支部を盛り上げていきたいと思えます。

追伸：もっと会員同士が簡単に意見交換や症例検討できる場を作れないでしょうか？時代に合わせて、非公開のFacebookページをCISJで作ってはいかがでしょうか。写真も簡単に載せられますし、携帯などからの書き込みもすぐにできます。

